

講義ユニット名	脳神経		所属科目名	器官・システム病態制御学 I
講義ユニット 責任者	まるやま ひろふみ 丸山 博文	所属	脳神経内科 (内線 5200)	
		メール	hmaru@hiroshima-u.ac.jp	
講義ユニット コーディネーター	ほそみ なおひさ 細見 直永	所属	脳神経内科学 (内線 5201)	
		メール	nhosomi@hiroshima-u.ac.jp	
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。			
概要	<p>脳神経は中枢神経系、末梢神経系により複雑に構成され、筋肉の動きを制御し、一方で外界を感知するために必要な五感（視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚）などを司っている。</p> <p>中枢神経系、末梢神経系や筋肉の構造や機能を理解することは、臨床において中枢神経系、末梢神経系や筋肉における多岐にわたった疾患を的確に診断し、適切な治療を行っていく上で重要である。</p> <p>さらに、それぞれの系における循環障害、腫瘍、炎症、変性などにより全身に影響する障害を呈し、死亡・寝たきり・要介護の原因となるため、その病態と症状を適切に理解することが求められる。</p>			
講義ユニットの 到達目標	<p>けいれんの原因と病態生理を説明できる。</p> <p>けいれんをきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>けいれんがある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>もの忘れの原因と病態生理を説明できる。</p> <p>もの忘れをきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>もの忘れがある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>頭痛の原因と病態生理を説明できる。</p> <p>頭痛をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>頭痛がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>運動麻痺・筋力低下の原因と病態生理を説明できる。</p> <p>運動麻痺・筋力低下をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>運動麻痺・筋力低下がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>小脳性・前庭性・感覚性運動失調障害を区別して説明できる。</p> <p>振戦を概説できる。</p> <p>その他の不随意運動（ミオクローヌス、舞踏運動、ジストニア、固定姿勢保持困難(asterixis)、アテトーシス、チック)を概説できる。</p> <p>歩行障害を病態に基づいて分類できる。</p> <p>失語症と構音障害の違いを説明できる。</p> <p>脳浮腫の病態を説明できる。</p> <p>急性・慢性頭蓋内圧亢進の症候を説明できる。</p> <p>脳ヘルニアの種類と症候を説明できる。</p> <p>脳・脊髄のコンピュータ断層撮影(computed tomography <CT>)・磁気共鳴画像法(magnetic resonance imaging <MRI>)検査の適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。</p> <p>神経系の電気生理学的検査（脳波検査、筋電図、末梢神経伝導検査）で得られる情報を説明できる。</p> <p>脳脊髄液検査の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。</p> <p>脳血管障害（脳出血、くも膜下出血、頭蓋内血腫、脳梗塞、一過性脳虚血発作）の病態、症候と診断を説明できる。</p> <p>脳血管障害の治療と急性期・回復期・維持期（生活期）のリハビリテーション医療を概説できる。</p> <p>認知症の病因を列挙できる。</p> <p>認知症をきたす主な病態（Alzheimer型認知症、Lewy小体型認知症、血管性認知症）の症候と診断を説明できる。</p> <p>Parkinson病の病態、症候と診断を説明できる。</p> <p>筋萎縮性側索硬化症を概説できる。</p> <p>多系統萎縮症を概説できる。</p> <p>脳炎・髄膜炎、脳症の病因、症候と診断を説明できる。</p>			

	<p>多発性硬化症の病態、症候と診断を説明できる。</p> <p>頭部外傷の分類を説明できる。</p> <p>急性硬膜外・硬膜下血腫及び慢性硬膜下血腫の症候と診断を説明できる。</p> <p>頭部外傷後の高次脳機能障害を説明できる。</p> <p>ニューロパチーの病因（栄養障害、中毒、遺伝性）と病態を分類できる。</p> <p>Guillain-Barré症候群の症候、診断を説明できる。</p> <p>Bell麻痺の症候、診断を説明できる。</p> <p>主な神経障害性疼痛（三叉・坐骨神経痛）を概説できる。</p> <p>重症筋無力症の病態、症候と診断を説明できる。</p> <p>進行性筋ジストロフィーの病因、分類、症候と診断を説明できる。</p> <p>周期性四肢麻痺を概説できる。</p> <p>てんかんの分類、診断と治療を説明できる。</p> <p>頭痛（偏頭痛、緊張型頭痛等）の分類、診断と治療を説明できる。</p> <p>水頭症の症候と治療を説明できる。</p> <p>主な脳・脊髄腫瘍の分類と好発部位を説明し、病態を概説できる。</p> <p>糖尿病の慢性合併症を列挙し、概説できる。</p> <p>Sjögren症候群を概説できる。</p> <p>Behçet病の症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>全身性血管炎を分類/列挙し、その病態生理、症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>脳・脊髄腫瘍、転移性脳腫瘍について概説できる。</p> <p>重金属、青酸、ヒ素、パラコート、自然毒による中毒を概説できる。</p>
講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	3分の2以上の出席がない場合は試験（本試験、追試験とも）の受験資格を与えない。代理出席が明らかとなった場合には、代理出席者および依頼者には試験受験を認めない。
評価項目	到達目標の達成度 （基本的理解と知識の応用）
評価法	MCQ形式にて試験を行う。 本試験における合格基準は60点とする。
推奨参考書	<p>【購入を推奨する参考書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ベッドサイドの神経の診かた 田崎義昭ほか 南山堂 2) 研修医・医学生のための神経内科学 神田隆 中外医学社 3) 神経内科ハンドブック鑑別診療と治療 水野美邦 医学書院 4) 老年医学テキスト 日本老年医学会 編 メジカルビュー社 5) 標準脳神経外科学 第12版 著者：児玉南海雄 医学書院 6) 脳神経外科学 改訂11版 総編集：太田富雄 金芳堂 7) グリーンバーグ脳神経外科バンドブック 原著第6版 監訳 黒岩敬彦 金芳堂 8) 改訂版 脳神経外科学必修講義 著者：松谷雅生 メジカルビュー社 9) 末梢神経の臨床—診断・治療・リハビリテーション 山野慶樹 著 医歯薬出版 10) 標準耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 鈴木淳一ほか 医学書院 <p>【その他、学習に有用な参考書等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 11) 講義時にプリントを配布するので、内容を精読すること 12) 日本神経学会のガイドライン一覧のURL http://www.neurology-jp.org/guidelinem/index.html